



令和7年度

令和7年7月 No. 1

京都嵯峨学園だより

地域生徒指導連絡協議会

5月12日（月）に嵯峨中学校にて、地域生徒指導連絡協議会総会が行われました。地域生徒指導連絡協議会は、「学校・PTA・地域諸団体との連携を強化し、地域ぐるみで健康で心豊かな児童・生徒の育成」を目的としています。総会では、令和6年度の事業報告、収支決算報告と令和7年度の事業計画案と事業予算案の提案を行いました。



京都嵯峨学園 学園運営協議会

6月23日（月）に嵯峨中学校にて、京都嵯峨学園運営協議会を行いました。京都嵯峨学園としての教育活動について、令和6年度の活動報告と令和7年度の活動計画について説明と確認を行いました。子どもの主体性を大切にしながら、考える力を大切にしていくことなど、4校の取り組みを通して育んでいきたい力についても話し合いました。



3小交流子どもすもう大会

6月28日（土）に広沢小学校の体育館にて「第24回三校交流子どもすもう大会」が公益財団法人嵯峨教育振興会の後援、嵯峨中学校相撲部・京都府相撲連盟の協力のもと開催されました。3年生以上の男女約90名が、個人戦と2校特別女子団体戦、3校男子団体戦に出場し、熱い闘いを繰り広げました。開会式では、嵯峨中学校相撲部と京都両洋高等学校相撲部の取組を見せていただきました。中学生、高校生の迫力のある立ち合いに、子どもたちはこれから始まる自分たちの取組に向け、気持ちを高めています。今大会の開催にあたって、各校のPTAが中心となり、多くの皆様に多くの時間をかけてご準備いただいたことに感謝いたします。

個人戦では、決勝トーナメント進出者を決めるためのリーグ戦を行い、それそれにこれまでの練習の成果を発揮することができました。



決勝トーナメントでは、予選を勝ち上がってきた選手たちの迫力ある取組が見られました。悔し涙を流す子を、学校関係なく励ます姿も見られました。

団体戦では、各校の5名の代表者がそれぞれの熱い声援に応えるべく、激しく粘り強い取組を見せていました。

小中合同授業研修会

6月26日(木)に、4校の教職員が3つの小学校に分かれて授業参観、事後協議会を行いました。小学校の6年間と中学校の3年間を通して、どのような資質・能力を育成していくのか、そのためには各クラス、各教科においてはどのような授業や取組をしていくことが効果的か、という視点で協議を行いました。

嵯峨小学校 3年 国語「まいごのかぎ」

「まいごのかぎ」の本文から自分の問い合わせ(疑問)をもち、その問い合わせを解決するために、主人公の行動や様子、言ったことや周りの様子などに着目して本文に線を引いたり、変化がわかるようにつなげたりしながら読み深めていきました。問い合わせを見つけていく活動は初めてでしたが、自分の問い合わせをもつことで主体的に学習を進めることができました。また、友だちと交流することで「自分の考えとは違う考えだな。」「友だちの考えを聞いて疑問だったところが少しあった。」などより詳しく物語を読むことができました。



嵐山小学校 1年 国語「つぼみ」

1年生が初めて説明的文章を読む学習でした。「何の花のつぼみかな。」「どうしてこの写真の順なのかな。」「ヒントになった言葉はどれかな。」と、問い合わせをしながら言葉と写真を結び付けて読むことや、つぼみが開いていく順序に気を付けて読むことができるよう、写真を並べ替えるという活動を取り入れました。子どもたちは、「先がねじれている写真はこれです。」「ここが、だんだん広がっているよ。」と言しながら写真を指差したり、「ねじれる」「広がる」などの言葉を動作化したりしながら、写真を並び替えた理由を話していました。協議会では、9年間のスタートである小学校1年生の姿をもとに、どのように学びを積み重ねていくことが大切かについて話し合いました。



広沢小学校 6年 算数「場合を順序よく整理して」

いろいろな場合を表に整理し、順序よく考えて問題を解決していく学習でした。問題を把握する場面や解決していく場面で、ペアやクラス全体での話し合いを取り入れ、子どもたちが対話を通して主体的に問題を解決することを目指した授業でした。協議会では、「小学校では、中学校を見通して」「中学校では、小学校の学び方を生かして」指導していくことの大切さを改めて感じることができました。小中の教職員が、学ぶ内容や積み上げてきた資質・能力を共有することで、子どもたちも小中の違いに抵抗を感じることなく、スムーズに学びを進めていくことができます。

